

第27期 第4回スポーツ推進審議会会議録

1 議事及び報告事項

《議 事》

平成29年度主要事業の報告について

《報告事項》

- (1) 卓球ジャパンオープン荻村杯北九州大会について
- (2) ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州について
- (3) 北九州2018ワールドパラパワーリフティング
アジア-オセアニアオープン選手権大会について
- (4) 第102回日本陸上競技選手権リレー競技大会 兼
日本GPシリーズ北九州大会第40回北九州陸上カーニバルについて
- (5) 北九州マラソン2019について
- (6) 今後の国際スポーツ大会等について
- (7) 『スポーツ北九州』の発行について

2 開催日時

平成30年10月31日(水) 10:00~11:30

3 開催場所

本庁舎5階 特別会議室A

4 出席者

◇審議会委員(敬称略)

出席委員	加倉井(会長)・南(副会長)・井上(副会長)・ 大木・河邊・倉崎・酒井・早崎・平野・眞鍋・宮田	11名
(欠席委員)	奥永・中山・濱田・船津	4名

◇北九州市

市民文化スポーツ局	村地理事(スポーツ担当)・本脇部長(スポーツ部) 城戸課長(スポーツ振興課)・山口課長(マラソン担当) 政徳課長(スポーツ施設担当)・三浦室長(国際スポーツ大会推進室) 藤本次長(国際スポーツ大会推進室) 藤田係長・高宮(スポーツ振興課)	9名
保健福祉局	香月課長・菅係長(障害福祉企画課)	2名
教育委員会	宮田指導主事(指導第二課) 園田指導主事(学力・体力向上推進室)	2名

5 議事の概要

平成 29 年度主要事業報告について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答を行った。

南委員

～Ⅲスポーツによるまちの活性化～

「4. スポーツによるにぎわいづくり基金活用事業の開催」について、今後の見通しとどのような事業を展開できそうか。また、市として追加で寄付を募る予定はあるのか

スポーツ振興課長

今後考えられる例として、コンサートのようなイベント、大規模なスポーツ大会、その他スポーツ以外の大会などを検討している。追加で寄付を募ることは現時点で考えていないが、必要になる時は財源の問題も含め検討したい。

南委員

～Ⅲスポーツによるまちの活性化～

スタジアムの夏芝の状態が昨年に比べて悪化している状況に見えるが、来年度夏頃予定されている国際的なスポーツ大会など、夏芝の対応が大丈夫か教えていただきたい。

スポーツ施設担当課長

夏芝の植え込みを行い現時点ではよい状態である。現在は 100%に近い形であるが、冬にかけてサッカーやラグビーの大会があるため、今後も夏芝が痛む可能性がある。来年の 5 月頃必要があれば再び対策を取る予定。

南委員

～Ⅲスポーツによるまちの活性化～

「1. 「みる」スポーツの機会創出」について、今年度からフットサルの全国リーグの 2 部にボルクバレット北九州というクラブが参画をしている。

試合を開催する体育館の確保が難しいようで、市内で開催するための体育館利用についてボルクバレット北九州と協議が可能かどうか。

スポーツ振興課長

ボルクバレット北九州からの要望があり、浅生スポーツセンターで対応できるよう防球ネットの設置とゴールの購入を行った。総合体育館だけでなく、今後は浅生スポーツセンターも使っていただければ調整する予定である。

井上委員

～Ⅱ学校体育等の連携・充実～

「1. 学力・体力向上推進事業」の予算額に対して決算額が半額しか執行できていない要因がどこにあるのか。

また、「2. 部活動振興事業」についても要因を教えてください。

教育委員会学力体力向上推進室 指導主事

「1. 学力・体力向上推進事業」の執行について、「体力向上プログラム第4版」という冊子を作成・配布したが、当初予定の1冊のページ数及び配布数が減少した。

また、ダンス講師の派遣希望校が予定より少なく、講習会での外部講師を招聘しなかったことによる経費の執行残が予算額に比べ決算額が減少した要因。

井上委員

教員一人ずつの配布を学年ごとに減らした理由は。

教育委員会学力体力向上推進室 指導主事

予算上は一人ずつの配布だったところ、学校の教職員専用の先生チャンネルや市HPにこのプログラムを掲載し、データで入手できるようにしたことによるもの。

教育委員会指導第二課 指導主事

「2. 部活動振興事業」の執行について、1番の要因は、部活動外部講師の謝礼金が、月の上限が1万円のところ、実際に上限に達さなかったための執行残。

井上委員

要望だが、学校体育事業の予算は多くないので、不要になるのであれば他の事業で還元するなど考えてほしい。

井上委員

～Ⅲスポーツによるまちの活性化～

「1. 「みる」機会の創出」で、ホームタウン推進事業が昨年度より集客が減っているが、その要因は。

「5. プロスポーツチームの支援」のギラヴァンツ北九州の支援は、結果がでていない中、6千万円という金額が、Jリーグ全クラブの中で高いのか低いのか水準を教えてください。

スポーツ振興課長

みるスポーツの実績人数が前年に対して減った理由は、平成28年度のスタジアムオープンイベントで市民招待を行ったため、平成29年度の入場者数が減少となった。

ギラヴァンツ北九州への支援はJリーグの中で上位にある。

あくまでもプロチームではあるので、自分たちで経営するということになるが、J2、J1を目指す中で支援は重要と考え、29年は6千万円の補助金となった。

ちなみに、昨シーズンはスタジアムのオープンング効果による観客収入も増加したこ

ともあり今年度は補助金を5千万円としている。

これは毎年の判断になるが、ギラヴァンツの経営状況、チームの成績、地元企業市民の皆さんの意見もお聞きしながら、今後の支援については随時検討していきたい。

井上委員

ギラヴァンツについては弱い時にこそ支えていくべきじゃないかと思っている。顕著な結果が出なくても集客といったところで支えていければいい。

加倉井委員

～Ⅱ学校体育等の連携・充実～

「2. 部活動の振興事業」で、外部講師や指導員の要件は資格を要しているのか、経験があればいいのか。

教育委員会指導第二課

外部講師は、地域の人材を活用する中で、ライセンスの要件はないが、専門的な指導ができる方を学校長と面談をした上で教育委員会に推薦し、委員会で承認することになっている。

指導員は原則土日の活動で、生徒の引率が単独でできる方としている。

今のところ、平日外部講師をやっていただいている方で、生徒の引率をやっていただけそうな方を校長から教育委員会に推薦し、委員会で承認、委嘱する、という形にしている。

井上委員

補足だが、部活動指導員は非常勤嘱託職員なので、日中仕事をしている方はなかなかできない。205人も外部講師がいるのに指導員が13人しかいないのはそういったところ。

指導第二課 指導主事

29年度は指導員15名、30年度は19名採用している。井上委員からもあったように30年度までは無職の方など限定して採用している。その点で人材確保の件で苦慮している。

スポーツ振興課長

人材確保の件に関して、市体育協会を通じ、各競技団体に人材の問い合わせができるような仕組みづくりを検討しているところ。

加倉井委員

そのような連携をぜひお願いしたい。

平野委員

～V. スポーツ施設・情報基盤の整備～

大半の施設利用者前年度よりが減っているのはなぜか。
スポーツ施設に気軽に行ける交通手段を考えてほしい。
スポーツをする機会や参加しやすい手段を検討してほしい。

スポーツ施設担当課長

施設別でみると減少しているように見えるが、平成 29 年度に浅生スポーツセンターにプールや体育館が集約されたことと、ミクニワールドスタジアム北九州が新しくできたということで、掲載箇所がかわっており、総計で見ると約 10 万人増えている。

交通手段としての公共交通の要望については、所管している建築都市局都市交通政策課と協議したい。

スポーツ振興課長

体育協会、レクリエーション協会、校区事業を通じて、いわゆるニュースポーツ、誰でも簡単に参加できるスポーツや、各種スポーツ入門講座、教室等を準備して初心者の方でも参加できるように取り組んでいる。合わせて教室のPRも積極的に行いたい。

酒井委員

「5. 指定管理者によるスポーツ施設の運営管理」

市民サービスの向上として、施設の利用者が指定管理をどのように評価しているのか。
また、施設の利用者の声として、利用申請等の窓口対応でもう少し親切に対応してほしいという声を聞くため、現状を把握し対応していただきたい。

スポーツ施設担当課長

指定管理者制度として、管理者を選定する際、去年の実績を事前に評価をする中で、市民の方にもアンケートしながら、対象の施設管理が良かったか、悪かったかなど調査を行っている。概ねどの指定管理者に対しても、約 9 割が「良い」、「概ね良い」という意見で、サービスや対応が悪いというご意見はあまりない。

今後も、定期的にアンケートや、指定管理者が独自で行うアンケートで意見を取りながら良質な施設運営を行いたいと考えている。

大木委員

指定管理制度を導入し効率を上げた事と具体的な削減金額を把握しているか。

～I. 生涯・競技スポーツの普及・振興～

「3. 高齢者及び障害のある人のスポーツ活動・生きがいづくりの支援」で、障害者スポーツ振興事業【指定管理】の、スポーツ施設管理運営費が高い理由と、利用者には一般の方が多い理由をききたい。

また、「2. 市民のスポーツ活動機会の拡大・創出」のうち、ニュースポーツの用具を市役所が購入する意味と管理方法についてききたい。

スポーツ施設担当課長

指定管理制度導入が平成15年度でその時は削減額を試算していたと思うが、現時点では把握できていない。

指定管理者を決定する際、過去の実績をベースに指定管理料の予定価格を設定し、それよりも低い価格で落札するためその差額分は削減できていると考えている。

また、施設での各種教室の開催や屋外プールの期間外の活用などの提案といった、行政側が気付かなかった市民サービスを提供するなど、賑わいのあるスポーツ施設の運営ができることが、制度導入の利点だと考えている。

障害福祉企画課長

アレアスの管理費は、障害のある方が利用されるということで、プールも含め人員体制を厚くしており、人件費の面で他の体育施設に比べ高くなっている。

また、障害に合わせたプログラムの実施、全館空調による光熱費等も経費がかかっている。

一般利用については、障害者のある方の社会参加も目的としていることから、近隣の方も多く利用されており数字に反映されている。

スポーツ振興課長

各区や校区で行う生涯スポーツの振興を目的にしたニュースポーツ大会やイベントに使用する用具や備品の予算を区に配当し、区が購入、管理、貸出など行っている。

早崎委員

～V. スポーツ施設・情報基盤の整備～

「4. スポーツ施設の整備」最近の夏の大会において、熱中症対策を取りながら大会を運営している。市内で空調がある施設は総合体育館と浅生スポーツセンターしかない。今後、体育施設に空調設備をつける計画はあるのか。

スポーツ施設担当課長

空調設備については、体育館全体に整備すると非常に高額になる。

市内体育施設に空調設備を整えたいが、高額のため「選択と集中」という考えで計画・実施を行わざるを得ない。

まずは、総合体育館の老朽化に伴う大規模改修に合わせ、第二競技場の空調設備を整える計画としたい。

6 報告事項の概要

(1) 卓球ジャパンオープン萩村杯北九州大会について

6月に開催された大会について、事務局より報告を行った。

- (2) ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州について
8月に市内で開催された交流プログラムについて事務局より報告を行った。
- (3) 北九州2018ワールドパラパワーリフティング
アジア-オセアニアオープン選手権大会について
9月に開催された大会、関連事業について事務局より報告を行った。

井上委員

大会にあわせ、交流事業として私の学校に大分の城（隆志）選手が来られた。
大会は、従来のパラリンピックのスポーツのイメージを覆すような、派手でゴージャスな感じで衝撃的なステージだった。子ども達に生の競技を見せる機会を作ることは、次への動機につながる地道な取り組みとして大切だな、と思った。
学校で流したプロモーションビデオもかっこ良く、子どもたちの中で、パラリンピック競技が、「障害があるから頑張っている」ではなく、かっこよくて憧れる、というイメージが変わったととてもいい機会だった。

- (4) 第102回日本陸上競技選手権リレー競技大会 兼
日本GPシリーズ北九州大会第40回北九州陸上カーニバルについて
10月に開催された大会について、事務局より報告を行った。
- (5) 北九州マラソン2019について
来年2月に開催される「北九州マラソン2019」の申し込み状況等近況報告を事務局より行った。
- (6) 今後の国際スポーツ大会等について
今後行われる国際スポーツ及びオリンピックパラリンピック関連事業を事務局より紹介した。

大木委員

オリンピックデーランは全国でどれくらい開かれているのか。

藤本次長

本年度は全国で8か所、福岡県は北九州市のみで開催。

眞鍋委員

11月16日～18日第15回北九州チャンピオンズカップ車椅子バスケットボール大会が開催される。こういったPR紙の中にも組み込んで、もっと障害者スポーツの周知をしていただきたい。

- (7) 『スポーツ北九州』の発行について
市内で行われるスポーツ大会のPR紙の発行について、事務局より報告した。